

地元紙で地域社会に興味を

八戸学院地域連携研究センターは2日、地元紙を読むことで学生に地域社会に興味を持ってもらうようと、「新聞から社会や地域を学ぶNIE(『教育に新聞を』プログラム)を開始した。参加学生は毎日、新聞を読み、興味深い記事をメールリストに送信して学生間で共有。活字に触れることで文章能力の向上

八戸学院、本紙を活用

にもつなげる。

八戸学院大1〜4年生の約30人が参加。学生たちは空き時間を利用して新聞を読み、気になった新聞記事を1日当たり2、3本選んでスマートフォンなどで撮影し、記事に対する感想を付けてメールリストに送信する。週1回のグループワークと月1回の全体会を通じて学生間で議論を行い、記事について理解を深める。新聞はデーリー東北新聞社が提供する。

2日は同大で初回講座が行われ、同社の工藤文一読者センター長が新聞紙面の構成や見出しの付け方などについて講義。「新聞記事は重要なことや結論から先に書いている。前文を読めばおおよその記事内容が分かる。面白い記事を探してほしい」と新聞の読み方をアドバイスした。

健康医療学部人間健康学科2年の田端ひかるさん(19)は「寮生活をしているので、新聞を読む機会が少ない。じっくり読んでみたい」と笑顔で話した。

(須田山裕太)



新聞を読み、興味のある記事を探す学生。2日、八戸学院大